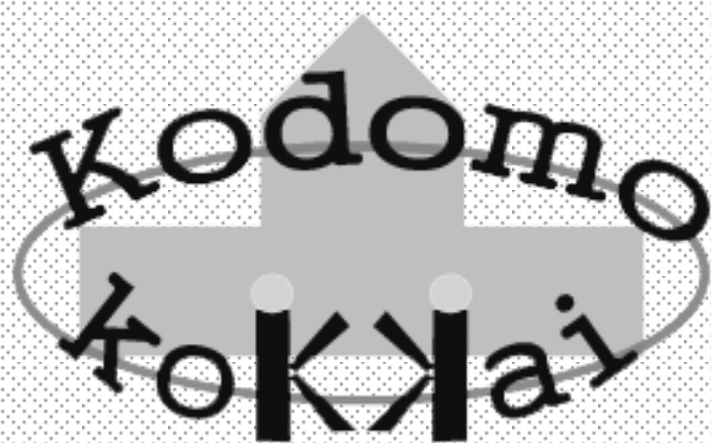


第11回子ども国会 宣言書



子どもへこれからの社会と
向き合うきっかけを提供する

平成26年8月14日
子ども議員一同

目次

p. 2 学校を作ろう！

**p. 8 教育分科会
～僕らの思う不登校児とは～**

**p. 13 グローバル化ってどういうこと？
どうなるの？**

p. 18 日本の貧困

p. 21 日本の医療問題

学校をつくろう！分科会

参加者名 樋口れみ 大和祐菜 佐藤彩夏 広瀬暖菜 上村慈蓮 太田幹也
木村菜々子 猪俣翔平 高崎宗悦 大橋南菜 下平千穂 森田聡

〈私たちが考えた学校の理念・教育方針〉

理念

他文化を尊重すると共に、自国の文化も大切にすることで、社会貢献できる自立した人間を育成する。

教育方針

私たちが考えた教育方針は、大きく4つに分かれます。

- ① 郷土研究、世界遺産や伝統文化への接触を通じて日本に誇りを持つ。また、誇りだけではなく日本の現状への理解を深めるために日本の社会情勢を学習する。
- ② 海外研修や、英語に限らず、外国語教育に取り組み、他国に尊敬の念を持ち、理解を深める。
- ③ 文化教育により、自分の行動を決められるようになる。
- ④ 学習において、校外学習や調べ学習を取り入れ、生徒の発言を大事にする。

私立学校の現状・問題点▲

1. 学費が高い

◎何故高い？

- 国からの援助が少ない
- 理想の実現や宣伝にお金がかかる。
- 公立よりもオプションがある。

◎理想

あまり高なくて
通いやすい学校

◎解決方法

- 助成金を増やす。
- どこにいくら使っているのか分かりやすくまとめ提示する。
- 学校の特性にあった生徒を特待生として援助する。

2. 授業がつまらない

◎何故つまらない？

- 先生がひとりで進める。
- いつも同じ形式。
- 先生に危機感がない。

◎理想

楽しくて発言したくなり、
生徒と教師の心がつながって
いる学校。

◎解決方法

- 間にゲームを入れる。
- 生徒に反応してもらおう。
- 生徒1人1人がわかるように、時間をかけて授業を行う

3. 総合学習の時間が少ない

◎なぜ総合学習の時間が少ないのか？

- 受験勉強があるから時間が取れない。
- 他の教科に時間を取られる。
- 勉強に特化した私立の場合、生徒に総合学習に対する意欲があまりない。

◎理想

社会に出ても役立つ経験を積み、受験勉強や学力になる総合学習を取り入れる学校

◎解決方法

- 限られた時間の中でも、記録に残して身につける。
- 総合学習があることを事前に知らせておく。
- 受験にも対応した総合学習にする。

4. 生徒の意見が尊重されない

◎なぜ意見が尊重されないか？

- 生徒自身が自分から積極的に意見を出さない。
- 先生に余裕がない。
- 授業などで余裕がなく、時間がない。
- 生徒や生徒会だけでプロジェクトを実行することは難しい。

◎理想

生徒自身がイベントやボランティアに参加しやすい環境をつくり、自主性を育てる学校

◎解決方法

- 自ら前に出るために、様々な手段を使う。
(タブレット端末、意見箱、直接言うなど)
- 先生と信頼関係を築く
- 生徒が詳細な計画を作り、先生に熱心にアピールする

5. 自主的な活動ができない

◎なぜ自主的な活動ができないのか？

- 勉強がいそがしく時間がない。
- 個を尊重する教育がされていない。
- 1人でやるのが怖い
- やることが多くて時間がない
- 宿題が多いので時間がない
- やりたい人とやりたくない人がいる
- めんどくさい

◎理想

生徒自身がイベントやボランティアに参加しやすい環境をつくり、自主性を育てる学校

◎解決方法

- より楽しくやりたいと思うような宣伝
- 誘って一緒に参加する
- 自主的な活動を宿題にしてしまう

その他の諸問題

- | | |
|-----------------|----------------------|
| • 学習内容が偏ってしまう | ⇒ 時間割を自分で作れるようにする |
| • 先入観があり、敷居が高い | ⇒ 宣伝や身近な人にすすめてもらう |
| • 数値重視の傾向がある | ⇒ 多様な見方をできるようにする |
| • 人間関係が固定化してしまう | ⇒ 学年内だけでなく学校での交流をする |
| • 個性があまり重視されない | ⇒ 一人一人の考えを尊重する |
| • 生徒数が足りない | ⇒ 効果的な宣伝をする |
| • 校舎、設備が汚い | ⇒ OB、OG、大学などに援助してもらう |
| • 校則が厳しい | ⇒ 校則をなくしていけるよう取り組む |

〈生徒にできること〉

- 意見を聞いてもらえるように、日頃から先生に信頼してもらえる行動をする。
- 積極的にボランティア活動などに自主的に参加する、また周りの友達を誘ったり宣伝したりする。

〈先生方へ〉

- 落ち着いて説明して、生徒に意見を聞いたりする。
- 互いに発信しあう授業をこころがけてほしいです。
- ボランティア活動や討論会などの活動を生徒たちに宣伝して下さい。
- 生徒の意見を尊重する為に意見箱の設置を検討して下さい。
- ワークシートを使うなどして、総合学習の時間を充実させてほしいです。

〈文部科学省・私立学校の方へ〉

- 成績上位者などの学費免除の制度をもっと充実させてほしいです。
- 学校の特性に合った生徒を特待生として援助してほしいです。

〈財務省の方へ〉

- 私学助成をもっと増やしてください。

感想

私は、最近、自分にとって身近であるものの1つ、学校に興味があったので、現在の日本の教育の課題、理想について話し合いたいと思い、この分科会を選びました。討論の場では自分と同じような意見を聞いて、皆で同じ事を考えているのかと思ったり、全く違う立場の意見を聞いて、納得したりして、とても面白かったです。今回話し合った事を生かして、自分で改善出来るような事は改善していきたいと思いました。ありがとうございました。

中3 木村菜々子

僕は初めて夏の子ども国会に参加しました。

「学校をつくろう」と聞いた時はとても重く感じましたがファシリテーターさんやサポーターさんのおかげで討論が楽しくスムーズに進んでとてもいい討論ができてよかったです。また参加したいです。

中3 太田幹也

7人も参加者がいるということをいかして、たくさんの意見を出し合い、議論することが出来てとても楽しかったです。ありがとうございました。

中3 広瀬暖菜

私は初めて『子ども国会』に参加しました。最初は緊張しましたが、討論していくうちに自分の意思を伝えられるようになって、とても討論しやすかったです。

少し前から学校をつくってみたいなと思っていてHPの分科会紹介をみたときはまさにコレだ！と思いました。今まで全然知らなかった学校設立に関する知識を得ることができたのでとても良かったです。参加してホントに良かったです。

ありがとうございました！

中2 樋口れみ

私は、子ども国会は初めて参加して、みんなで討論して話しあい内容をまとめて仲よく相談しながら考え、とても楽しかったです。「学校をつくろう」と言う課題をどんなふうになるのかいろいろな案がでて、それをみんなでまとめるのが大変だったけど、まとめることができたので良かったです！

中1 佐藤彩夏

ぼくは夏が2回目で、1回目と同じく楽しめました。この2日間で人と話すことの大切さと、知らなかった私立学校について知識を得ることができました。

中1 上村慈蓮

今の日本の教育を受けていて、日々いろいろな疑問や意見がありました。なので、今回の子ども国会「学校をつくろう！」分科会に参加しました。初めての参加でしたが、先輩や実行委員の方々に色々と教えていただき、気がねなく討論することができました。

学校以外の中学生とも知りあう事ができ、学校生活においても刺激を受けました。1泊2日の短い間でしたが、とても大切な、今後に生かせる体験になりました。

中2 大和祐菜

教育分科会～僕らの思う不登校児とは～

参加者名： 藤野美登里 平野光代 横山雄紀 鎌田伊晴 牧山実紗 河合遼

概要

①個人（自分自身）に関する問題

②対人 //

③環境 //

具体例と対策案

①についての例：周りを観察している。集団行動が苦手
一人でいるのが落ち着く。 etc・・・

要因：集団に入ってくタイミングが掴めない。
一度トラブルになった経験がある（トラウマ）。
今からでも解決できそうなものは、タイミングが掴めない
という考え方である。

→対策：複数の人が共有できる話題で話す
授業内で1対1のグループワークを設ける。
自己紹介で会話の糸口となりそうなキーワードを発表する。

②について例：人と話すのが苦手。人が嫌い etc・・・

いじめという言葉には対人関係の問題が多く含んでいる為、考えた。

	いじめる側	いじめられる側
要因	<ul style="list-style-type: none"> ・積み重なった恨み ・積み重なった妬み ・共通の嫌う対象がある事で生まれる。仲間意識 	<ul style="list-style-type: none"> ・常識から離れている ・人と違う。
対策	<p><未然防止策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交換授業を行い、教師間の情報交換をする。 ・監視カメラを設置する。 ・教師間でいじめる人いじめられている人それを見ている人に分かれて演じてみるロールプレイングゲームを行う。 <p><事故後対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師がいじめに向き合い“厳しく、本気で怒る”などの対応をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個性を含めた多様性を尊重する考え方を育てる教育を行う。 <p>例：現在の道徳の授業スタイルを新しくする（物語の展開を話し合いながら考えていく授業）。</p>

③について 例：学校が楽しくない。携帯を常に持ち歩いている。

etc・・・

どうしたら様々な考え方の人が学校に行きたいと思えるか？
ということについて話し、「どんな人でも学校が楽しい」と思えば
学校に行くと考えた。

対策：ルールが無いと自由に様々な事も出来るが、そうする事で友達との交流も減り、つまらないので、ある程度のルールは作る。
毎日学校で行われる授業が自分にとって興味が持てるようにする為、
選択授業を増やす。パワーポイント、移動教室を取り入れた、普段とは異なる形式での授業。皆で考える参加型の授業。
ペアワークで話すきっかけを作る。

<自分達でやっていくこと>

- その場にいる人達の中で盛り上がる共通の話題を話す。
- 自己紹介をするとき、複数の人が興味・関心を持つキーワードを話す。
- 耳を傾けてみよう意識を持つ。

<先生にお願いすること>

- 生徒と向き合い、教師間での情報交換を行う。
- ペアワークなどを取り入れ授業スタイルを変える。
- ロールプレイングゲームなどを教師の教育を行う。

授業スタイルを変えるとは？

〈現在〉

- 教室に座っているだけ、聞いているだけ
- 講義中心
- 一般的な知識を教える事が多い

〈将来〉

- 先生との交換授業
- 専門的な内容を含めた選択授業
- ディベート
- 図書館授業で調べ物を自由にしながらすすめる授業
- 実験など移動教室の授業

つまり

今では、生徒が受け身の姿勢でもよかったスタイルを生徒が主体となって授業を動かすスタイルに変えること。

感想

私は今回、初めて子ども国会に参加させて頂いて、丸1日討論するという経験を体験できました。最初に日程を見たときには、1日討論することができるか不安でした。

けれど、実際に子ども国会の討論に参加してみると、常に考えていることで頭がそちらに集中し、時間がすぎるのを忘れ、しまいには時間が足りないと思う自分に驚きました。

今回私は、「教育分科会～僕らの思う不登校児とは～」に参加しました。このテーマは学生である私にとって最も身近であり、1度はきちんと向き合うべきテーマだと思っていたので、様々な立場の人が集まっている子ども国会という場で話し合えたことは貴重な経験になったと思います。不登校児といえば、想像するのは対人関係でのトラブルを考えやすいように私は思いますが、こうして話し合ったことで一人で考えつかなかったようなことまで考えることができました。こういう場を作っていただけたことは改めてありがたいことだと思います。ありがとうございました。

藤野 美登里

人見知りや、意見もまとまらないのに討論会は好きという気持ちだけでこの場にきてしまった事に、最初は緊張と不安ばかり積もっていました。又長い討論時間というのも途中で心が折れるのではないかと心配していました。

今回の議題の不登校児も、身近ではあるけれど深く掘り下げる程に難しく感じる部分もありました。しかし意外にも不登校になるまでの軽い段階の所を自分も経験した事があったと知り、自分の中での問題として感じられました。

色々な原因によって起こるのだとは思いますが、どれか1つでも自分の心に残っているような会になったと思います。

2日間、貴重な経験ありがとうございました。

平野 光代

グローバル化ってどういうこと？どうなるの？

参加者名：長谷川碧 板垣春人 黒金友太郎 石田庸 雨宮祐樹

今井宥里 北迫照喜

0. グローバル化ってどういうこと？どうなるの？分科会とは

皆さんは、「グローバル化」と聞いて、なにを思い浮かべますか？

政治、経済、文化などのことが想像できると思います。

しかし、グローバル化によって、実際に「何が起こるか」、また、その結果「どうなるか」を考えたことがある人は少ないのではないのでしょうか。

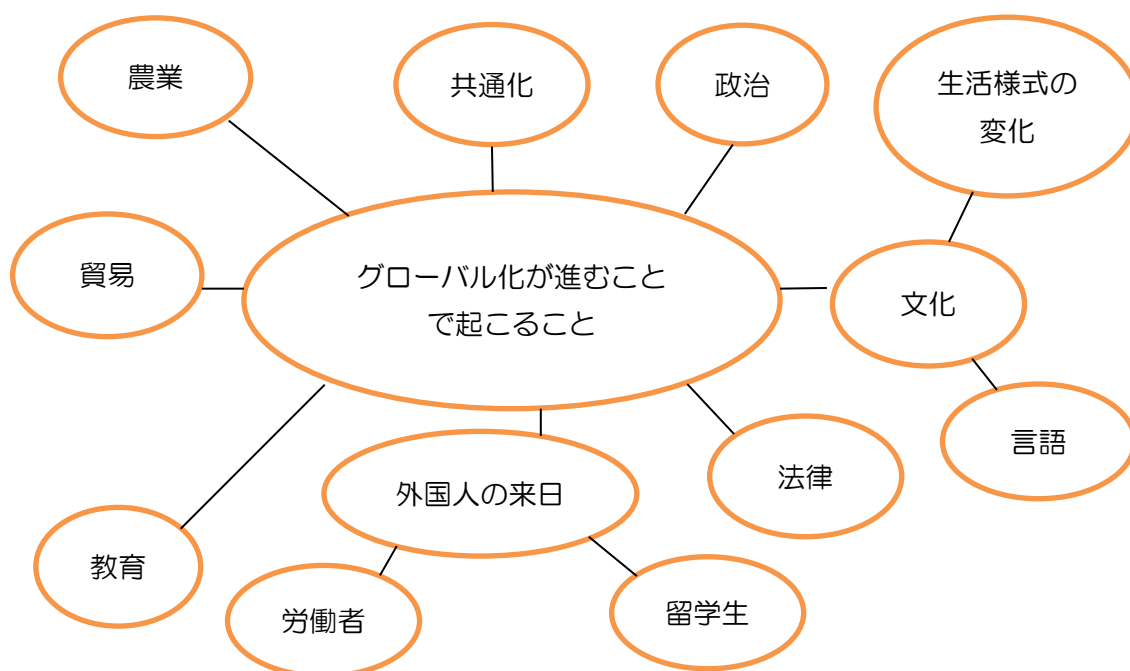
この分科会では、グローバル化の進展により、これから「何が起こるのか」、それが「なぜ起こるのか」、その結果「どうなっていくのか」という3点を話し合います。

そして、話し合った内容を踏まえて、このグローバル化する世界をどう生きていくかを、共に考えていきたいと思っています。

1. グローバル化が進むことで起こること

まず、私達はグローバル化が進むことで起こることを考えました。

そしてそれらを以下のようなグループに分けました。



グローバル化ってどういうこと？どうなるの？

各グループでは、主に以下のような意見が出ました。

共通化…単位、コンセンツの共通化

政治 …共通の市場と議会が必要

世界全体が1つにまとまるかもしれない。

生活様式の変化…靴を履いたままの家と従来通りの家が混在

言語 …日常的に英語が浸透

法律 …入国審査の厳格化、犯罪を犯した外国人の強制送還

同性愛、事実婚、国際結婚

留学生…留学生との交流で視野が広がる

労働者…外国人労働者の増加、チャイナタウン・コリアンタウンのような地域の増加

教育 …今以上に外国語教育が重視される

学校にネイティブの先生が増える

貿易 …海外との競争、貿易が活発になる

様々な国が各国の得意分野で分業して製品作りをする

農業 …日本の農家の減少

2. グローバル化で起きることのメリットデメリット

次に、その中からいくつかのジャンルについて話しました。

特に、グローバル化による「文化」と「貿易」「経済」の変化について着目しました。

まず、文化についてです。私達は、グローバル化による生活様式の変化を予想しました。中でも印象深かった意見が、「オフィスに外国人が増えるかも」というものでした。

私達はその意見について、より深く考えてみることにしました。

まず、そういったことが起こる原因について話し合いました。

その結果、社内で英語を公用化する企業が増えたことや、海外企業との交流が盛んになったことで、外国人から見た日本企業就職の敷居が下がったことなどが挙げられました。

次にそういったことが起こす結果、メリット、デメリットについて話し合いました。

その結果、企業に国籍がなくなるということで、世界中から、自分に合った職場で、それぞれの好きなことを、特異なことができ、企業も個人もはッピーになり、業績も上がる。

そして、海外の働き方の体制が増え、自由に働くことが流行るかもしれない。

そうすれば、個人のライフスタイルが確立でき、仕事と育児の両立や、プライベートに時間を割くことが出来ると考えました。

しかし、優秀な外国人が入社してくることで、賃金格差が広がってしまったり、日本人が就職難に陥ってしまう。また、英語能力の需要が増し、英語が得意でない人が取り残されてしまう可能性があるなどのデメリットも分かりました。

次に、貿易についてです。

この中で、印象深かった意見は、「国内で商売がしにくくなる」というものでした。

そうなる主な原因として、海外の広大な土地で大量生産され、少ない輸送コスト、低い関税で外国産の安い商品が入ってくるということが考えられました。

そして、このことから起きることについては「世界に通用する極一部の企業以外は、倒産、または併合されていく」「給料ダウンやリストラが増え、不景気になる」という意見がでました。

最後に経済についてです。

ここでは、企業が海外の情報を多く取り入れることでより良い事業が出来る。そこで、消費者も、インターネット等で、海外の情報を簡単に入手することができるようになり、選択の幅が広がるという考えに到りました。

3. グローバル化に伴い起こる問題点

2で出したグローバル化に伴い起こることの中には、解決すべき問題点もいくつか存在しました。その中で、解決できそうなものを探ったところ以下のような問題点とその原因、そして解決策を導き出すことができました。

①国内で商売がしにくくなる

…企業間の格差の拡大、リストラ、産業の空洞化、技術流出

○なぜ起こる？

- 世界でヒットを飛ばす一部製品への売り上げ集中のため、それ以外のメーカーの売り上げ減少、打撃を受ける
- 国内の工場が移転し、働き先が無くなる
- 海外との競争激化によって価格を下げざるを得なくなった結果、収益減少、最悪倒産へ
- 企業の弱体化が原因である

○解決策

- 企業の弱体化を防ぎ、“世界で生き残る”企業にするため、海外企業を含め企業同士の合併を推奨する。
- 海外の企業に対抗するための研究・対策を国が支援する
- 海外に勝てるように最先端の技術教育を行う

②オフィスに外国人

…英語ができない人が取り残される

しかし、今この問題は起こっていない

○なぜ今この問題が起きていないのか

- 今はまだ、外国人採用が少なく、社内公用語の英語化も進んでいないため

○この問題を防ぐには

- 今の内から外国語教育のレベルを上げ、幼いころから英語に触れさせる
- 現在のいわゆる受験英語を転換し、コミュニケーション力重視のより「実践的な英語教育」にシフトさせる必要がある

グローバル化ってどういうこと？どうなるの？

…賃金格差が広がり、将来像が描けず、先行きが不透明に

○なぜ起こる？

○国籍や年齢など関係なく社員を採用するなどして、

成果主義がさらに徹底されるから

○グローバル化に対応できなかった会社の賃金低下及び倒産

○解決策

○グローバル化においては、成功した企業とそうでない企業が生まれるため、ある程度の格差は止むを得ない。

しかし、競争から落ちてしまった人に対する社会保障制度は、

これからますます競争が加速する中で必須となっていく。

よって、生活保護など「最後の砦」となるセーフティネットの制度を維持していくべきである。

4. グローバル化に必要なものとは？

グローバル化に対応できる人間になるためにはどんな能力が必要か、ということについて意見を出しました。

コミュニケーション能力…様々な人と臆せず話せる

協調性 …自分1人でやるのではなく、協力する

英語力 …外国人と最低限のコミュニケーションがとれるように

生命力・適応能力…環境が変わっても生きれるように

行動力 …自ら進んで行動する

分析力 …今の情勢を分析する

カリスマ性 …日本人だからと言って見下されない程度に外国人をひきつける魅力

決断力 …自分のことは自分で決める

変化を楽しむ…変わることを恐れない

強いメンタル…少しのことでも落ち込まない

5. みんなの決意

長谷川碧

- 自分がどういう人間か理解する
- 自分で決めたことを確実に実行し、成功させる。
- 最大限の努力をし、精一杯生きる

板垣春人

- 外国の方とも臆することなく話せる英語とコミュニケーション能力をつけ
 - 世界の出来事から情勢を分析して知識をつけ
 - そうしてつけた知識を元に自ら行動
- …結局、自分に忠実に生きる
そういう人に私はなりたい

黒金友太郎

グローバル化によって格差が激しくなるかもしれない。
勝ち組の層にはいるために、努力しなければならない。
まず、どんな外国人とも対等に話せるような実践的な英語をつけ、
その上で自分の力を最大限に活かせる仕事に就きたい。
何としてでも誰にも負けたくないなので、勉強する、努力する。
とりあえず、高校受験に受かることが勝ち組への一歩だと思う。
そして、最終的にはドイツ人美女と結婚する。

感想

討論で少し難しい話題について意見を出す時、
友達と話すことで新たなアイデアを思いつくことができました。
また、みんなが少しずつ意見を出すことでたくさんのアイデアが出てきました。
今回の子ども国会では1人ではなく、協力して考えることの大事さを再確認できました。

長谷川碧

一口に「グローバル化」と言っても、文化・貿易・法律など、
それぞれのメンバーから、様々な分野にわたって起こることなどの意見が出されました。
年齢も考え方も違う人が語り合う、議論の面白さを改めて味わうことが出来ました。

板垣春人

受験勉強以上に勉強になりました。はっぴーです。

黒金友太郎

日本の貧困

参加者名：日置巴菜 天野淳風 千葉裕二 松井奏 中嶋千夏

森田善乃 桑田実結

■ 討論の流れ

〈発展途上国と日本の貧困の差とは？〉

発展途上国の貧困の問題は、そもそも制度が整っていないことがあげられる。日本としての貧困は、制度は整っているが、精神的・金銭的な面で貧困がある。

〈日本の貧困〉

日本の貧困のイメージを書き出していき、それを結びつけていった。そうすると、家庭の財力→教育→労働→社会的な面という繋がりによって、貧困が社会に影響を与えていることが浮き彫りになった。それからさらに絞ってゆくと、家庭の財力→教育の不十分→低賃金の仕事→家庭の財力、という連鎖が起こっていることが分かった。

〈様々な現状〉

まず家庭の財力がないことに関する現状として、母子家庭・父子家庭、学生貧困、生活保護をはじめとする生活保障を受けている家庭、親の意識が低い家庭、1食にかけるお金が少ないこと、といった様々で幅の広いものがでてきた。

教育の不十分といった面で挙げると、留学できない、進学が出来ない、奨学金がもらえない・返せない等が挙げられた。

低賃金の仕事に就くと影響することとしては、中卒・高卒といったことやその日暮らし、非正規雇用、ホームレス、地方と都市部・農業などに従事する人といわゆるサラリーマンとの間で起こる収入格差というのもここで挙げた。

〈中卒・高卒の人達の現状〉

今回、日本の貧困について考えるにあたり、まず、中卒・高卒の人に焦点をあてて考えてみた。中卒・高卒の人が良い仕事また普通の仕事に就くことさえも難しい現状があった。中卒・高卒つまり低学歴の人がどれだけ良い仕事に就こうとしても就けない現状を考えると、日本が今「学歴社会」ということが考えられた。それを踏まえて私たちがアプローチ出来る部分があるのだろうかということを考えた。

〈中卒・高卒の人達に向けての支援〉

私たちが中卒・高卒の人達に向けて支援できたらと思ったのは、家庭の財力→教育の不十分→低賃金の仕事という連鎖をどこかで止めなければいつまでも続くため、それを打ち止めなければいけない、ということがあるからだ。母子家庭やホームレスなどに着眼する意見もあったが、ここを解決するということは他の問題を解決するというよりも根本的な解決になると考えたため、中卒・高卒に目を向けるという結果になった。

〈企業側から見る〉

企業は大卒・院卒の優秀な人材を求めている。それに対し、中卒・高卒の人材には企業に採用されたいがされないという面があった。中卒・高卒の人材の就職には、何か専門的なことをしてみる必要があると思った。そこで、解決案を専門的な分野で考えてみた。

■解決案

【1】 第一次産業に従事するための高等専門学校を設置

日本で農業・漁業をはじめとする第一次産業に従事する人口が減ってしまっていることと、中卒・高卒の人材が就職出来ていないという現状があるため、そこを上手くかみ合わせられれば良いと思い、この案を考えてみた。

中卒・高卒の人の中には、お金がないため進学しない人が多い。そのため、第一次産業に従事するための高等専門学校で、実際の労働により近い訓練の対価として一カ月8～10万円を支給するというのが私達の理想だ。

【2】 職人の公務員化

1と同じように、跡を継ぐ人のいない伝統工芸品などの職人の人手不足の解消と、中卒・高卒の人材の就職のための選択肢の幅を広げる解決案として挙げた。国が価格設定を行うことで商品の値段が高くなる、という懸念に対しては、売れなければ価格は適正価格に戻ってゆくという意見が出された。公務員化で職人の収入の安定化を図ることで、生活のためすぐに収入の必要な中卒・高卒の人にも職人の道を就職先の選択肢としてもらえるのではないかと考えた。

感想

普段日本における貧困をあまり意識することがないので知識を新たに取り入れられたことや自分にはない考えを持っている人たちがいたことや自分の意見に反論してくる人の考えに対して考えることが楽しかった。

高校2年 天野淳風

“日本の貧困”と聞いた時に初めて浮かんだ印象とそれに反するような今日の会は私の中で新たな考え方を生み出す良い経験となりました。意見を真正面から受けとめてくれるその気持ち良さと、それに反対してくれる人の意見を聞くということの経験が、新鮮でとても楽しく、興味深い会となりました。

中学3年 日置巴菜

普段みんなと話し合う機会が少ないので、この2日間は、自分にとって大切な時間でした。これからも話し合う事と通じて、積極的に発言できるようにしたいです。

中学1年 千葉裕二

日本の医療問題

参加者名：高橋美樹 西篠由香 橋本樹 葛西寛司 島野恵理子 齋藤翼

私たちの分科会では、日本の医療問題について話し合いました。

以下のテーマに分けて考えました。

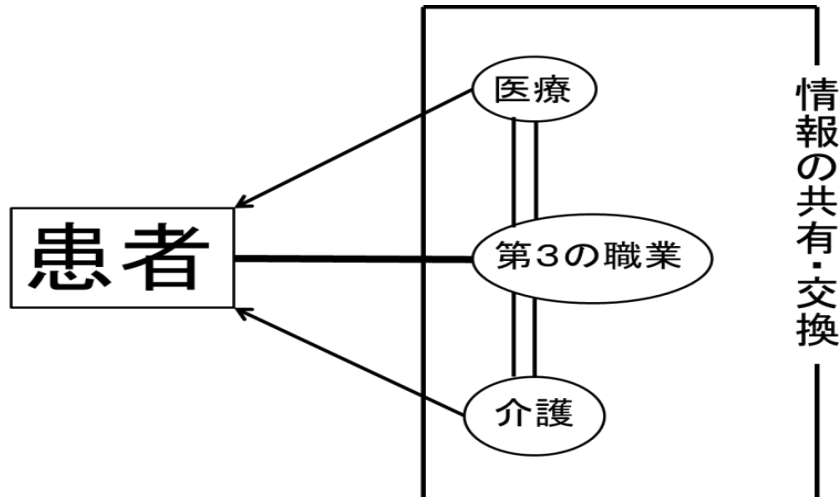
- ① 設備不足
- ② 医師不足
- ③ 患者不足
- ④ 貧富の差
- ⑤ 交通の便
- ⑥ 薬

この中のテーマで特に⑤について話し合いを進めました。

①医療と介護の連携・協力

医療を最も必要とするであろう高齢者は、医療のほかに介護をも必要とする世代でもあります。そこで、医療と介護を結びつけることによって患者の負担が軽くなるのではないかと考えました。

- 医療と介護、そして患者を結びつける“第3の職業”の設置



Q 職業内容

主に医療と介護、患者を結びつけるパイプの役割を果たす。

*健康相談

- 例)・「風邪をひいた気がする…。これはほんとうに風邪？風邪薬がほしい」
・「何だか今日は食欲が無い…。」

これらの具体例のように、小さな体調変化や悩みを相談できる身近な存在

*自宅～病院間の付き添い

体力的に一人での通院が困難なお年寄りに付き添い、診断結果や処方された薬についても把握し、どの薬をいつ服用するのか？まで管理する

「病院に行きたくても行けない」ということは無くなるのでは？

Q 頻度

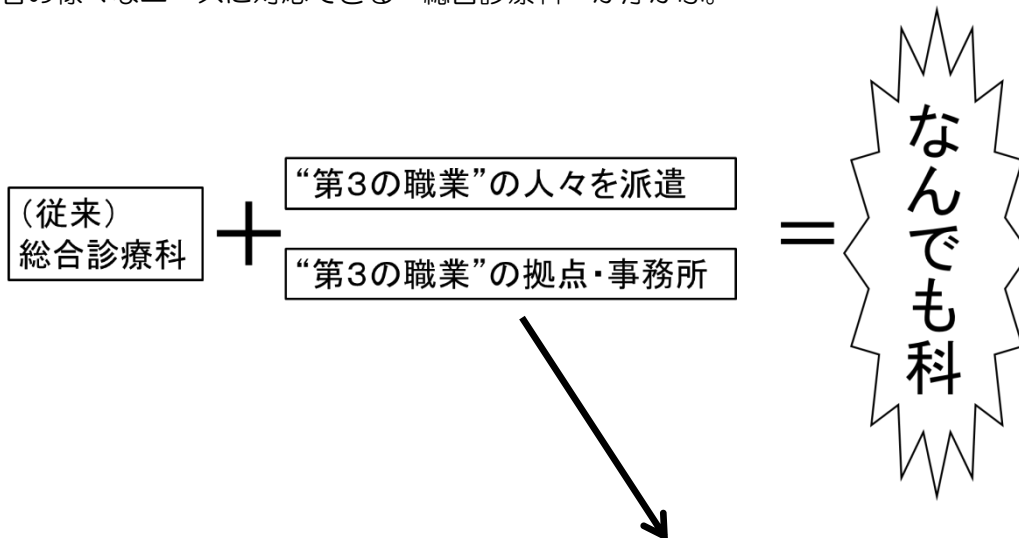
*定期的に訪問してくる（～日ごとに1回は必ず など）

*必要に応じて対応してもらえるよう、ボタンを押すだけなどの連絡手段の整備

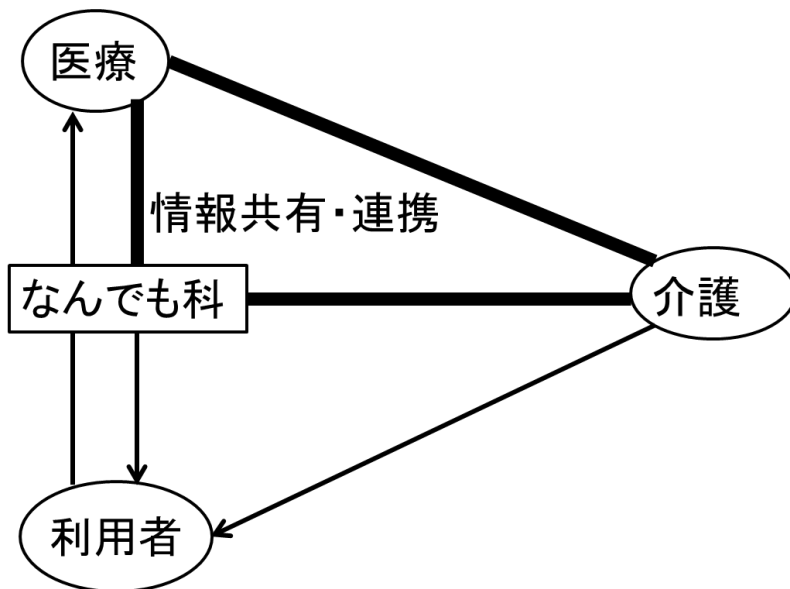
・なんでも科の設置

“科”に関係なく、どの病院でも医療処置を受けられるということが可能だったら高齢者にとって通院が楽なものになるはず。

“科に関係なく”ということに注目してみると、どの科で診察を受ければいいのか分からないといった患者の様々なニーズに対応できる“総合診療科”が浮かぶ。



“第3の職業”の拠点をここに置くことで医療と患者の結びつきをさらに強めることができるのでは？



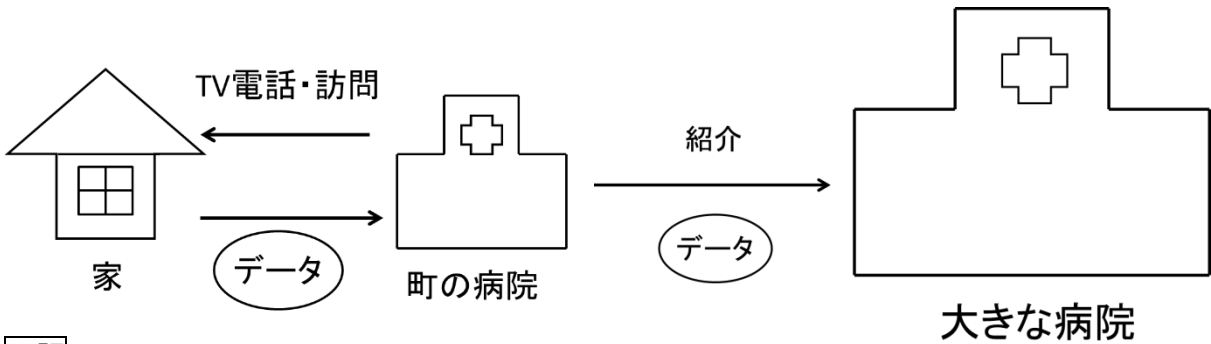
②病院までの距離が遠い高齢患者

現状 過疎化が進むなどして病院までの距離が遠く通院できない高齢患者がいる

この現状を改善するために、使える手段を考えました。

手段 過疎化が進んでいる地域で支給の進んでいるコンピューターやTV電話に高齢者が選択肢を選ぶなど簡単に操作でき、その日の体調を入力できる機能を付ける。

そのデータを町の病院に送り、医師が管理できるようにする。そのデータにおいて体調のすぐれない高齢者と医師はTV電話で通話し、医師が必要だと判断した場合は訪問治療を行う。また、訪問治療や町の病院の技術では補えない病気の患者はその患者のデータを大きな病院に送り、大きな病院での治療を行う。



課題

遠いから行く必要があっても行けない

だから

自己判断してしまう

手段を使うことで?

理想

TV電話を通じて、医師と話せる
必要な場合は訪問治療を行ってもらえる

患者が行ってしまう
誤判断が減る

その結果

高齢者に、あまり負担をかけることなく
適切な病院利用を促進できる。

感想

“医療問題”というテーマに対して、とても長い時間をかけて真剣に考えたことで医療への興味が生まれたと思います。

少しずつ焦点を狭めていき、どんどん内容を深めていく楽しさを知れたので何か今後を活かせれば、と思います。

高1 高橋 美樹

子ども国会に初めて参加するにあたって、とても緊張していましたが、自分の意見を持った上で、それに人の意見も加え、また新しいアイデアを出していくことに楽しさを感じました。

また、“医療問題”というテーマについて初めて深く考えましたが、新たな知識をたくさん得ることができました。子ども国会に参加することができて良かったと思います。

中3 西篠 由香



子ども国会実行委員会